

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671100337
法人名	ふるさと企画株式会社
事業所名	グループホーム大手町
訪問調査日	平成 20 年 10 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	671100337		
法人名	ふるさと企画株式会社		
事業所名	グループホーム大手町		
所在地 (電話番号)	山形県新庄市大手町2番83号 (電話) 0233-23-8080		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15	常勤 6人, 非常勤 9人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	鉄骨		造り	
	3階建ての		2階 ~ 3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050		円

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	6 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.6 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山科内科医院・伊藤歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心街に位置し、市民プラザ、図書館、公園、商店街等の施設へも歩いて行くことができるため、地域住民、商店街の方々との交流が盛んであり、また、「共に(一緒に考え一緒に行動します)、笑って(笑顔のある暮らし)、つながって(地域や家族とのふれあいを大切に)」という理念を掲げながら、管理者・職員・利用者が家族のように、仲良く楽しく暮らしている笑顔あふれるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 車椅子利用者を含む2階・3階からの避難誘導訓練の実施、防災意識向上を目的とした他施設の災害訓練への参加、地域の協力を得られるための働きかけが行われており、夜間の災害発生や地震発生時の訓練も今後は予定されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で取り組んだ自己評価を主任がまとめており、前回の評価結果の内容についての具体的な取り組みも進められている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月ごとに開催されており、事業所の取り組みや運営状況、行事、防災訓練、認知症の理解のための広報活動などの議題について話し合われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム独自のアンケートで寄せられた「職員の服装」についての意見を、職員ミーティングで全員に周知して改善に活かした例がある。また、本社介護事業部にも相談窓口が設けられている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、子供会や商店街の資源回収等に参加して、地元の人々との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に考え一緒に行動・笑って笑顔のある暮らし・つながって地域と家族との触れ合いを大切にします。」という、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や職員控え室に掲示されており、また、ホームだよりへ載せたり、会議やミーティングでの確認が行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、子供会や商店街の資源回収等に参加して、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で取り組んだ自己評価を主任がまとめており、前回の評価結果の内容についての具体的な取り組みも進められている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催されており、事業所の取り組みや運営状況、行事、防災訓練、認知症の理解のための広報活動などの議題について話し合われている。		

山形県 グループホーム大手町

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口にグループホームのパンフレットを置いてもらったり、制度面で分からないことを教えてもらいながら、市との連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態の報告は、家族の希望に合わせて電話、FAX、メールでも報告されている。また、毎月請求書と一緒に担当者が作成した「お便り」も家族に送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム独自のアンケートで寄せられた「職員の服装」についての意見を、職員ミーティングで全員に周知して改善に活かした例がある。また、本社介護事業部にも相談窓口が設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2階・3階の両ユニットを職員が交代で担当していることから、利用者との馴染みの関係が日常的にできあがっており、職員の異動があった場合でも、利用者へのダメージが少ない勤務体制を取り入れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修に参加できており、研修報告も作成されている。また、月1回のホーム内での勉強会(グループホームにおけるリスクマネジメント等)も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での情報交換や交換実習が行われており、「ちょっと待ってて」など、利用者との関わりの中で多様している言葉について振り返り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	じゃが芋や大根と一緒に掘って収穫の喜びを味わったり、調理や保存についての「知恵」を教えてもらったりしながら、利用者と職員が互いに支えあう関係ができていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の過ごし方や食事の仕方などについて、本人の意向が尊重されている。また、困難な場合には、職員がより注意して利用者の状態を観察しながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の意向を取り入れ、医療機関やホーム利用前のケアマネジャーの意見も聞きながら、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月ごとに介護計画見直しの会議が開催されている。また、利用者の状態の変化に合わせて、1週間～2週間ごとに介護計画を変更した事例もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医や協力医受診の際には職員が付き添うよ うにしている。また、かかりつけ医や協力医以外の医療 機関の受診を希望する場合には、家族が付き添い受 診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入居時に本人や家族の意向を確認しながら、事業所と しての考え方を話し合うようにしており、状態の変化に 合わせて、かかりつけ医等とも話し合い、方針を共有し て対応するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	「もし自分が利用者だったら、その言葉や対応をどう感 じるか」ということに注意を払うようにしており、相手に感 謝の気持ちをもって接するようにしている。また、プライ バシー保護の点から、「下駄箱」や「お便り」に名前を書 く時の表記方法についても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、場所、入浴など、利用者一人ひとりの生 活のペースを大切にするようにしており、それぞれの希 望に沿った生活ができるよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜・山菜の下処理、食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行うようにしており、楽しく安全に食事が楽しめている。また、外食や出前も取り入れ、食事内容に変化を持たせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めてはいるが、朝、昼、夕方、利用者それぞれの希望に合わせて入浴することができ。また、風呂場の雰囲気にも気を使い、入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、掃除、洗濯、ゴミ出しなど、それぞれ役割をもってもらうようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑、花への水やり、公園への散歩、ごみネットの回収、回覧板置き、買い物など、希望に合わせた日常的な外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関に鍵をかける事の弊害を職員は理解しており、利用者が外に出ていこうとする場面では、職員も利用者につき添って外出し、できるだけ玄関に鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	車椅子利用者を含む2階・3階からの避難誘導訓練の実施、防災意識向上を目的とした他施設の災害訓練への参加、地域の協力を得られるための働きかけが行われており、夜間の災害発生や地震発生時の訓練も今後は予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取状況がチェックされており、また、一人ひとりの好みやアレルギーに配慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、階段、踊り場には入居者の作品が飾られており、また、2階・3階の窓からの見晴らしが良く、それぞれの階の利用者の好みの音楽が流れる共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、テーブル、ベッド、神棚、御札、時計、写真などが持ち込まれた居室となっており、思い思いに一人の時間も過ごすことができている。		